

悴

〔古事記中〕建内宿禰之子并九男七女二

〔古事記傳 二十三〕男は牟須古女は牟須賣と訓べしの牟須古と云稱古書には見えざれども中昔

云ふ稱なり牟須古能君だちなども云り牟須賣は書紀の訓なども多く見えて是又中昔も今も常に云稱なり然れば此に對へて男子牟須古と云ももとより古言なること疑なし然るを牟須古牟須賣とは世に遍く云なれて古言のみ舉て和名はなし字鏡にも見えす

〔三養雜記 三〕我子を稱して悴といふ

せがれといふ詞は瘦枯やせがれの略語にてもと人を卑めのしる詞なりその證は室町殿日記に主君にはなれまゐらせてすでに渴命を失ひ乞食同前のせがれどもといひまた武邊咄にも丹後守大の眼を見いだして推參なるせがれめと旬てかけとほるなど見えたり今は貴賤ともに我子を稱する詞となれるは謙辭なり倭爾雅に悴俗作悴今倭俗稱我子曰悴蓋謂悴者之意猶中華稱我女謂蕉萃といへりやつがれといふも倭名類聚抄に奴僕和名夜豆加禮とあり日本書紀通證に吾憔悴枯槁之義謙辭也といへりかればこれももとは奴僕の稱なり今自稱して僕どもやつがれともいふは我子をせがれといふに同じ

〔正字通卯集上〕悴俗悴字

〔貞丈雜記二品〕一我が子の事を人に對して卑下して愚息といひし也略○中今はせがれと云也悴の字を用る也悴の字本字悴の字也憔悴とつゞく字にてかじけると云字也せがれと云詞もせばまりかれんになる心にて我が子のやせおとろへかじけたる心成べし雜役の人夫を悴者カセモといふも同じ心也

〔嬉遊笑覽九〕和名抄奴僕をやつがれといへり日本紀通證に吾は憔悴枯槁之義謙辭也是なり

り我子をせがれといふも同義にてやせがれの略なり倭爾雅に悴俗作悴倭俗稱我子曰悴猶唐人稱我女謂蕉萃江戸にて下賤のもの私といふをわつちと云なども昔の奴詞なり雜兵物語に